

# 無線通信アドバイザーグループ 第 31 回会合報告書

令和 6 年 4 月  
日本代表団

## 2024 年 3 月 RAG-31 会合報告書

【会合名称】 ITU 無線通信アドバイザリーグループ第 31 回会合  
【会 期】 2024 年 3 月 25 日(月)～27 日(水)  
【開催場所】 ITU 本部／電子会議(Zoom)によるハイブリッド会合  
【概 要】

無線通信アドバイザリーグループ(RAG:Radiocommunication Advisory Group)は、ITU 条約第 11A 条に規定された会合であり、世界無線通信会議(WRC)の準備や無線通信総会(RA)、ITU-R 研究委員会(SG:Study Group)に関する計画、運営、財政事項等について検討し、その結果を無線通信局長に提示することを任務としている。

RAG 会合は通常年 1 回開催されており、今回の会合は、2024 年 3 月 25～27 日の 3 日間の日程で、スイス・ジュネーブの ITU 本部にて、電子会議とのハイブリッド形式で開催された。出席者は、70 の主管庁、4 の認定された運営機関、9 の科学又は産業組織、及びその他の国際機関や ITU 事務局等からの約 250 名であり、日本からは、外務省、総務省、NTT ドコモ、KDDI、スカパーJSAT、日本放送協会、電波産業会等から 10 名が参加した(RAG/16)。

本会合の結果の要約(Summary of Conclusions)は、回章 CA/273<sup>1</sup>として回覧された。

### 【本会合の主な審議結果】

- RAG 副議長候補のうちイタリア、米国、ロシアの候補の任命に関し投票が行われた結果、イタリア及び米国の候補は賛成多数で任命、ロシアの候補は反対多数で非任命となった。
- 理事会関連事項(衛星網ファイリングのコストリカバリー、2024～2025 年の予算、2025～2028 年事業計画案、6 つの公用語の対等な使用)、RA-23 及び WRC-23 の結果等について、報告及び質疑応答が行われた。
- RA-23 の結果の付随措置として、第 2 回目の WRC 準備会合(CPM:Conference Preparatory Meeting)の見直しと改善を検討するコレスポンドンス・グループ(CG)を RAG 内に設置することで合意し、CG への委任事項(ToR:Terms of Reference)が作成された。CG 議長には Fahad Alghamdi 氏(サウジアラビア)が任命された。
- 研究委員会(SG)活動に関し、ジュネーブ以外での SG 会合開催においてビザ取得の問題等により参加が制限される可能性が指摘され、これまでどおりリモート参加も併用することなどによりできる限り対処することが求められた。
- セクター間活動に関し、電気通信標準化アドバイザリーグループ(TSAG)からの持続可能なデジタルトランスフォーメーションに関するリエゾン文書が審議された。本件は ITU においても重要な項目であるとして、セクター間調整グループ(ISCG)において検討を行うため、RAG 副議長 2 名を ISCG への代表として任命した。
- BR 情報システム／ソフトウェアについて、無線通信規則(RR)ナビゲーションツール、RR 第 5 条周波数分配表ソフトウェア、BR IFIC 等の無料提供やオンライン無料ユーザー数の拡大に関する提案が検討され、必要に応じて理事会において議論すべきとされた。
- 決議 55(WRC-23、改)に基づく衛星通信網ファイリングの電子申請、公表等のための e-Submission 及び e-Communications システムの改善に関する日本の提案について紹介と質疑応答が行われ、日本の継続的な支援に対し謝辞が述べられた。
- アウトリーチに関し、NGSO コンステレーションに関する研修イベントを開催する中国の提案が紹介され、WRS や RRS で NGSO コンステレーションに係る技術や制度を扱うことや、関連する ITU-R 会合に合わせてワークショップを開催すること、ITU-R 及び ITU-D が共同で企画するイベントの開催などを検討するとした。
- ITU、IMO、ICAO 等における海上、航空業務関連の手続や規制要件をまとめた包括的なガイドライン策定を求めるサウジアラビアの提案を受け、WP 5B においてハンドブックを作成する案なども含め各主管庁に検討を奨励した。

<sup>1</sup> <https://www.itu.int/md/R00-CA-CIR-0273/en>

- 次回 RAG-32 会合の暫定的な開催日程として、2025 年 4 月 14～17 日が候補となっていることが周知された。

## 1 開会

開会挨拶では、ITU 事務総局長 Doreen Bogdan-Martin 氏から、前議長 Daniel Obam 氏(ケニア)に次ぎ RAG 議長に就任した Mohammad Aljnoobi 氏(サウジアラビア)への祝辞が述べられた。また、気候危機やデジタル格差など、人類が最大の課題に直面する中、2023 年無線通信総会(RA-23)及び 2023 年世界無線通信会議(WRC-23)において BR(無線通信局)局長率いる ITU 無線通信部門(ITU-R)が達成した成果に対し賛辞が述べられた。

BR 局長 Mario Maniewicz 氏は、ITU-R 新研究会期の初回となる RAG 会合への参加者を歓迎した。特に無線周波数に対する需要増加にあたり、ITU-R の活動が国際社会において重要となっていることから、RAG から BR 局長及び ITU-R 事務局への助言が各 SG の活動支援の上で鍵となることを強調した。

電気通信標準化局(TSB)局長尾上誠蔵氏からは、2024 年 3 月の国連総会にて採択された AI に関する新決議において ITU による「AI for Good」プラットフォームの取り組みが言及されており、ガバナンスの枠組みや技術標準の開発を推奨していること、また、2024 年 10 月にインドで開催される世界電気通信標準化総会(WTSA-24)に向けて準備を進めていることが述べられた。

RAG 議長は、周波数資源の効率的な管理、公平な分配と利用による世界的なコネクティビティとイノベーションを実現するために、協力的、集団的努力が急務であることを強調した。

## 2 議題の承認

関係文書:ADM/1(Rev.1)

RAG 議長から、2024 年 3 月 21 日(RAG-31 への寄与文書の提出締切後)に受領した SG 及び RAG の副議長任命に関するロシアの寄与文書(RAG/15)は、アジェンダにおける 3 RAG 副議長の任命において紹介することとしたとの説明があった。アジェンダは変更なく承認された。

## 3 RAG 副議長の任命

関係文書:RAG/4(BR)、15(ロシア)

### 3.1 SG及びRAGの副議長任命に関するロシアの寄与文書の紹介

ロシアから、ITU-R SG 及び RAG の副議長任命に関する寄与文書(RAG/15)が紹介された。具体的には RA-23 以降に開催された SG 6 会合及び SG 7 会合(いずれも 2024 年 3 月に開催)において ITU-R 史上初めて SG において副議長任命のための投票が行われ、SG 6、SG 7 共にロシアからの候補者が反対多数で非任命とされたことは、ITU 加盟国の主権の侵害、副議長任命の手続き違反、国籍を理由とした専門家に対する差別(世界人権宣言第 2 条に違反)であると主張する内容である。

ロシアは特に、副議長の任命手続きについて、以下を根拠として異議を唱えた。

- (経緯)ITU 条約第 20 条(No. 242)に基づき、ITU-R SG 等の議長及び副議長は、RA が任命する。しかし、RA-23 の決定事項として、副議長の任命(**appointment**)は各グループに委任されることとなった。
- SG 6 及び SG 7 会合において、候補者の専門性の問題ではなく、あくまで政治的動機により候補者リストの承認に異議が呈され、副議長の任命ではなく選出(**election**)のための投票が行われた。投票による副議長選出プロセスは ITU の基本文書(ITU 憲章(CS)、条約(CV)、会議等総則(GR))のどこにも定義されていない。この場合、PP 決議 208「セクターアドバイザーグループ、研究委員会、その他グループの議長及び副議長の任命と最長任期」が適用されるべきであった。
- PP 決議 208 によれば、副議長の任命は協議(**consultation**)によるべきである。また、RA、SG、RAG 等の作業方法を規定した ITU-R 決議 1-9 にも、SG の作業方法として、意思決定は投票によらず、合意によるべきであると記載されている。
- 上記のほかにも、SG 6 及び SG 7 会合で行われた投票は、ITU 基本文書の数々の条文に違反している。

以上からロシアは、RAG から SG 6 及び SG 7 に、差別的決定の取り消し及び ITU-R 決議 1-9 と PP 決議 208 に従った地域機関から推薦された副議長立候補者の承認の検討を指示することなどを提案した。また、RA-23 において ITU-R 決議 72「ITU-R の活動におけるジェンダー平等及び公平の推進、並びに貢献及び参加の男女格差の解消」が策定された一方で SG 6 会合ではロシア人女性の任命が否定されたこと、本 RAG 会合に技術的専門家でない政治担当者が参加し、政治的議論を持ち込んでいることにも疑義を唱えた。

ロシアの主張に対する反応は以下のとおり。

- ニカラグア、ベラルーシ、中国、ブラジルは、ITU は国際連合の専門機関であるとして、議論の政治化に反対した。
- ウクライナは、ロシアによるウクライナの侵攻は明らかに国際連合憲章、国際法、ITU 憲章及び ITU の使命に反し、ウクライナの電気通信インフラの破壊や電気通信主管庁の主権の侵害は著しく、ロシアの候補者が ITU の要職に就く権利はないと主張した。また、ベルギーが EU 諸国<sup>2</sup>を代表してウクライナを支持した。
- ITU 法務顧問からは、SG 6 及び SG 7 会合において行われた投票による副議長の任命手続きの妥当性について、以下のとおり説明があった。
  - ITU-R を含む ITU の意思決定プロセスは CS、CV、GR に規定されるが、CS によれば、GR に矛盾しない範囲で各部門がそれぞれ作業手順を採用できる。ITU-R 決議 1-9 が ITU-R の作業手順に相当し、同決議においてはコンセンサスによる意思決定が優先されているが、それが達成できない場合は、上位規則である CS 第 3 条(No. 27) に加盟国の PP、世界会議、総会、SG 会合での投票権についての規定がある。GR 第 2 章にも投票に関する詳細規定がある。つまり、SG において投票を行うことは可能である。
  - 会合への参加資格を承認するための信任状(credential)に関する疑義も提出されているところ、確かに credential という用語の定義について多少明白でない部分があるが、CV 第 31 条(No. 324～)に基づき、外務大臣、元首、政府主席又は会議の内容を所掌する大臣が署名した信任状の提出プロセスが必要となるのは条約締結会議のみである。通常の部門会合での参加資格承認は ITU フォーカルポイントを通じた参加登録(レジストレーション)による、というのが ITU の慣行として確立されている。

ロシアは、上記は ITU 法務顧問の解釈であるとして受け入れず、ロシアの寄与文書(RAG/15)に関しては特に合意や結論には至らず、RAG 副議長候補に関しては一部の候補者について投票を経て任命されることとなった(以下参照)。

---

<sup>2</sup> オーストリア、ベルギー、ブルガリア、クロアチア、キプロス、チェコ、デンマーク、エストニア、フィンランド、フランス、ドイツ、ギリシャ、アイルランド、イタリア、ラトビア、リトアニア、ルクセンブルク、マルタ、オランダ、ポルトガル、ルーマニア、スロバキア、スペイン、スウェーデン

## 3.2 RAG副議長候補リストの検討、イタリア、米国、ロシア候補に関する投票

ロシアの寄与文書(RAG/15)においても経緯として言及されているとおり、RA-23 での決定事項として、今研究会期の RAG 副議長の任命は RA においては行われず、RAG に委任されることとなった。これに基づき、以下 12 名の RAG 副議長候補者リスト(RAG/4)が審議された。

表 1 RAG-31 会合において審議された RAG 副議長候補者のリスト(RAG/4)

氏名	国
Eng. S. Al Balooshi	アラブ首長国連邦
Mr T.A. Bakaus	ブラジル
Dr M.A. El-Bashary	エジプト
Mr W. Gababo	ケニア
Mr S. Harutunyan	アルメニア
Dr L.L. La Franceschina	イタリア
Dr J. Lim	韓国
Eng. A. Oshadami	ナイジェリア
Mr S.Y. Pastukh	ロシア
Dr B. Patten	米国
Mr T.R. Vieyra Mejía	メキシコ
Mr Y. Xie	中国

### 3.2.1 ロシア、イタリア、米国の候補者以外の承認

副議長候補者のうち、ロシアの候補である S. Y. Pastukh 氏について、ウクライナが副議長としての承認に反対した。上述のとおり、ウクライナへの侵攻により人命のみならずウクライナの電気通信インフラに著しい損害を与えており、同国からの候補者が ITU の要職に就く権利はないという理由による。

これに対し、ロシアは、SG 1 議長や RA 議長を歴任し、地域会合でも要職を務めてきた Pastukh 氏の専門性と経験は疑う余地がなく、PP 決議 208 に規定される副議長の要件を完全に満たしており、同氏を含むリスト上の候補者全員を承認すべきであると主張した。ベラルーシ、カザフスタン、ブラジル、アラブ首長国連邦も Pastukh 氏を含むリスト上の候補者全員の承認を支持した。

一方、英国及び EU 諸国を代表するベルギーがウクライナを支持し、Pastukh 氏を除いた候補者を承認することを支持したところ、ロシアがフランス、米国、チェコ、ベルギー、デンマーク等、武器供与を行っている国や戦争に加担している国の候補者を全て除外することを要求すると述べた。これにより、イタリア(L.L. La Franceschina 氏)、米国(B. Patten 氏)及びロシア(S. Y. Pastukh 氏)の候補者 3 名が、反対意見の出た候補者として識別された。

ここで、米国の提案により、上記 3 人以外の反対意見の出していない候補者 9 名は全て承認された。

### 3.2.2 ロシア、イタリア、米国の候補者の任命の是非に関する投票

ウクライナから、イタリア、米国、ロシアの候補者については全ての意見が出つくしたとして、議論を中止し、投票にかける動議(motion)が提出された。国名カードを掲示する方法により多数の国が動議を支持した。一方、ベラルーシ等が動議に反対した。

上記のとおり動議に対し支持と反対意見が一定数(支持 1 件、反対 2 件)以上提出されたため、以下の手順で投票が行われた(GR No. 107 参照)。

#### ① 動議(議論を終了し投票を行うこと)の支持／不支持に関する投票

挙手による投票が行われ、結果は以下のとおりで、動議は支持された。

投票総数 44 支持 39 不支持 5 棄権 8

#### ② 反対意見が示されている候補者 3 名(イタリア、米国、ロシア)の任命／非任命に関する投票

##### A. 投票方法

ITU 事務局からは挙手投票が提案されたが、ベラルーシが秘密投票を提案し、国名カードを

掲示する方法により確認したところ、5 か国以上が秘密投票を支持したことから秘密投票とすることとされた。

## B. 投票結果

投票用紙を用いた秘密投票の結果は以下のとおり。

表 2 RAG-31 会合における RAG 副議長候補者(イタリア、米国、ロシア)の投票結果

	投票総数	無効票	棄権票	有効投票数	任命賛成	任命反対	結果
イタリア	54	1	5	48	45	3	任命
米国	54	1	5	48	45	3	任命
ロシア	54	1	5	48	10	38	非任命

なお、ロシアは投票の有効性等に関し異議(point of order)を提出し、投票の手続きが行われている間は退席した。また、本会合の結果の要約(Summary of Conclusions)の Annex 4 に、RAG-31 における決定を認めず、コンセンサスに達しなかった副議長候補者は任命されたとみなさない旨のロシアの声明が添付された。

## 4 BR 局長から RAG-31 への報告

関係文書:RAG/1(Rev.1), Add. 1, Add.2

BR 局長から RAG-31 への局長報告(RAG/1(Rev.1), Add. 1, Add 2)は、従来どおり BR から RAG に提出している報告であり、各項目はそれぞれ担当者が詳細に説明すると簡潔に紹介があり、了知された。

## 5 ITU 理事会関連事項

関係文書:RAG/1(Rev.1)、5(BR 局長)

RAG-31 への報告(RAG/1(Rev.1))に記載された無線通信部門に関する ITU 理事会関連事項において、特に以下について BR からの説明と質疑応答が行われた。

### 5.1 衛星網ファイリングのコストリカバリー

RAG-31 への報告に示された衛星網ファイリングのコストリカバリー関連事項(RAG/1(Rev.1) (§ 2.2.2))について以下の説明があった。

前回 RAG から 2023 年理事会への助言「理事会決定 482(衛星網ファイリングのコストリカバリーの実施)に対応する専門家グループを再開し、大規模／複雑な申請、同一システムの再提出により BR が負担するコストの増加について、現行の方法論では正確に把握できない問題について、2024 年理事会に助言を行うための作業を開始するよう要請する」に基づき、専門家グループが設置され、2024 年 1 月に第 1 回会合が行われた。第 2 回会合の開催は 2024 年理事会開催後になるため、2024 年理事会には第 1 回会合の結果に基づき中間報告を提出し、その後さらに検討を続ける予定である。

この報告に対し、米国から、専門家グループから 2024 年理事会に具体的にどのような情報を提供するかについて質問があり、BR から、専門家グループによる分析の継続及び担務の遂行のために必要とするデータに関する内容を含む、第 1 回専門家グループ会合の報告のみを提供するとの説明があった。

### 5.2 2024～2025年のBRの予算

2024～2025 年の BR の予算(RAG/1(Rev.1) (§ 2.2.3))に関し、無線通信規則委員会(RRB)、RAG、SG 会合、セミナー及びワークショップ、BR 等の項目毎にまとめた表が示された。

なお、本予算は WRC-23 前に承認されたものであって、WRC-23 の結果を実施するための予算は

含まれていないことを確認した。

## 5.3 2025～2028年のITU-R事業計画案

前回 RAG 会合にて ITU 事業計画が提出されたが、ITU-R 関連部分として RAG が確認すべき部分が不明確であるという意見があったため、ITU-R 事業計画を個別文書(RAG/5)として用意したことが紹介され、WRC-23 での決定事項の実施、WRC-27 に向けた準備や、ITU-R 出版物を含む出力作業毎の BR 人員リソースの割り当て等を含む事業計画案が報告された。

## 5.4 ITUの6つの公用語の対等な使用

RAG-31 への報告に示された PP 決議 154「ITU の 6 つの公用語の対等な使用」の実施のための言語に関する理事会作業部会の作業概要(RAG/1(Rev.1) (§ 2.2.4))が説明され、RAG-31 への報告への付録として提供された翻訳の状況を示す報告(RAG/1(Rev.1) (Add.1))にあるとおり、BR のウェブページにおける自動翻訳の利用が拡大していることが報告された。また、ロシアから、6 つの公用語の対等な使用に関する ITU-R の取り組みの進捗を評価する指標が存在せず、上記事業計画にも示されていないため、目標としての指標を設定し、RAG の常設議題として指標に基づく報告を BR が行うことが提案され、了知された。

## 6 RA-23 及び WRC-23 の結果と関連措置

関連文書: RAG/1(Rev.1) (§ 3)、8(米国)、10(ロシア)、INFO/1(WRC-23 予算委員会(COM3))

### 6.1 RA-23の結果

RAG-31 への報告に示された RA-23 の結果(RAG/1(Rev.1) (§ 3.1)、主な ITU-R 決議の改訂、新決議、RA から SG への指示等)について BR から報告があった。

ロシア(SG 4 議長)から、RA-23 にて ITU-R 決議 4「無線通信研究委員会の構成」に記載された各 SG の所掌に、脚注として「SG4、5、7 は、宇宙業務が使用する無線周波数帯と関連する衛星軌道資源の持続可能性(PP 決議 219)に関連し、ITU-R の責任と権限下にある事項について、適宜、SG4 の主導の下で協力することが求められる」と追加されたことを受け、毎年非常に多くの衛星が軌道に投入されている事実や、新 ITU-R 決議 74「宇宙業務が使用する無線周波数スペクトルと関連する衛星軌道資源の持続可能な利用に関する活動」も SG に対しハンドブックの作成を奨励していること、さらに、前研究会期でもハンドブックが古すぎることで指摘されたことなどを鑑み、RAG が SG 4 に対して新しい衛星通信ハンドブックを作成するよう勧告を出すことが有用であると提案した。これに対し、イラン及び BR 局長から、SG の活動としてのハンドブックに関する作業は寄与文書に基づき行われるものであり、RAG から SG への指示は必要ないが、問題に対する検討と適切な措置の要請、メンバーへの呼びかけは可能であるとの説明があった。このような議論を受け、本 RAG-31 会合のサマリーレコードには、ITU-R SG 4 及びその他の関連 SG に対し、作業は寄与文書に基づき行われることに留意しつつ状況を検討し適切な措置を講じることを求める旨が記載された。

ロシアはまた、ITU-R 決議 1 に開発途上国の参加者による ITU-R 会合への参加に対し ITU が可能な限り財政支援を提供することが新しく記載されたが、この実施のための予算や計画等について報告がないことを指摘し、このほかにも、各 ITU-R 決議について行った措置の報告を毎回の RAG 会合の議題に含めるべきであると提案した。これに対し、BR から、開発途上国の参加については、2024 年はフェローシップ向け予算が割り当てられており、2025 年以降は状況が変化するかもしれないが予算の割り当ては行われるとの説明があった。また、BR 局長から、フェローシップに関し、開発途上国の参加促進は望ましいが、SG 及び WP への参加支援には莫大な予算が必要となるため、資金に関する検討が必要となるとの説明があり、本件はノートされた。

### 6.2 RA-23の結果に付随する措置(CPMプロセスの改善についての検討)

RA-23 において WRC 準備会合(CPM)に関する ITU-R 決議 2 の改訂を審議する過程で CPM プロセスの見直しが必要であるとの議論があったことを受け、RAG において本件を扱うコレスポンデ



ンス・グループ(CG)を設置することと、CG への委任事項(ToR)を提案する米国の寄与文書(RAG/8)及びロシアの寄与文書(RAG/10)が紹介された。いずれも、CG を設置して 2 回目の CPM に関する変更の可能性を検討することを提案する内容である。

上記の提案に基づき、CG の設置については異議なく合意し、ToR 案は、本 RAG-31 会合の 2 日目午前で開催された Sultan Al Balooshi 氏(UAE)を議長とするドラフティング・グループ(DG)において作成され、同日午後の RAG 会合にて承認された。CG の検討対象は(CPM プロセス全体ではなく)第 2 回 CPM であると明記し、現時点では ITU-R 決議 2 の改正については直接的に言及せず、第 2 回 CPM の詳細な見直しを行い、CPM レポートの準備に向けた手続き面において改善できる領域を特定すること、とされた。また、ロシアが、ITU の規制策定が衛星分野などにおける技術革新に追いついていないとして、WRC と WRC の間に開催する Extraordinary WRC に向けたプロセスを本 CG にて定めることも提案していたが、イラン、フランス、ドイツ等が反対したことから ToR には含まれなかった。

今回設置されることになった同 CG の議長については、日本から候補者を推薦したが、これに対しロシアが RA-23 以来専門家に対し国籍に基づく差別を行う国<sup>3</sup>の CG 議長任命には合意できないとして、中立国からの任命に固執したことからオフライン協議を経て CG 議長には Fahad Alghamdi 氏(サウジアラビア)が任命された。

## 6.3 WRC-23の結果

RAG-31 への報告に示された WRC-23 の結果(RAG/1(Rev.1) (§ 3.2))及び WRC 予算統制委員会の報告(RAG/INFO/1)が紹介された。WRC-23 の決定事項に基づき、一部の WRC-27 議題(宇宙天気、月面通信、衛星間通信といった新しい研究分野のための追加の会合費用)や HIBS 等に関連した pfd 制限値の計算等といった新しい作業に付随した 2024~2027 年の費用見積もりは 12.6 百万スイスフランであると報告された。

## 7 研究委員会(SG)による活動

関連文書:RAG/1(Rev.1) (§ 4), (Add.1)

出力文書:TEMP/3(RA、無線通信部門の SG、関連グループの作業方法のためのガイドライン)

SG による活動は、RAG-31 への報告 RAG/1(Rev.1) (§ 4)及び付録(RAG/1(Rev.1) (Add.1))を基に紹介され、主に以下の点について議論が行われた。

- BR 局長から SG に提供される作業方法のためのガイドラインについて:  
ロシアから、ITU-R 決議 1 の改訂を反映した更新状況について質問があり、BR から、エディトリアルな改訂を既に行った(TEMP/3)との説明があった。ロシアから、Chairman の語を Chair に修正してあるが CS、CV で用いられている語と不整合であることから修正は不要である、多くの記述が不要又は不明瞭である、文書の種別(作業文書、草案、案等)を明確に定義すべき等、多数の指摘があった。イラン、ドイツから、本件については断片的に議論すべきでなく、また、短時間で議論することも不可能であることから、今回は情報として了知し、次回までに寄書文書を募るべきとの意見があった。BR から、ロシアのコメントのいくつかはテキストが不明瞭だったことに起因するものと思われること、本ガイドラインは必要に応じて随時改訂する前提で作成されている文書である旨の説明があり、本会合ではガイドラインの改訂案(TEMP/3)を情報として了知し、次回の RAG 会合に対して主管庁や SG 議長等から本文書の改善のための提案を募ることとなった。
- SG ブロック会合の開催日程、ジュネーブ以外での開催について:  
ロシアから、以下の 3 点について指摘があった。
  - 新研究会期の初回の会合では WP 会合の前に SG を開催すべきである。
  - ビザ取得に係る問題があることを踏まえ、2024 年 5~6 月に米国コロラド州で開催

<sup>3</sup> RA-23第3回全体会合のサマリーレコード([RA-23/C/101Rev.1 Annex A](#))

が予定されている SG 3 ブロック会合は、開催地と日程を再調整すべきである。

- 。 ジュネーブ以外の開催を検討する際、今後はビザの取得に問題が発生し得る国からの会合招致は BR 局長が却下すべきである。

これらの指摘に対し、BR 局長から、米国での SG 3 ブロック会合の開催は、ITU 本部ビル建て替えに関連した会議場不足が顕在化したことを受け、2021 年末に既に決定していたことが説明された。ビザ取得の問題や、また、渡航費用の問題から参加が制約される場合もある点も踏まえ、RAG から BR 局長に対し、既に計画された会合に関し発生し得る困難や懸念を考慮し、今後も引き続きリモート参加を含む対策を講じることが助言された。

## 8 WRC-27 に向けた準備

関連文書: RAG/1(Rev.1) (§ 5)

RAG-31 への報告に示された WRC-27 に向けた準備(RAG/1(Rev.1) (§ 5))が紹介され、2024 年理事会で WRC-27 議題、WRC-27/RA-27 の日程と開催地を含む新 ITU 理事会決議が採択される予定であること、CPM27-1 の結果等が報告された。

## 9 セクター間活動

関連文書: RAG/2(TSAG)、3(ITU-T SG 5)、6(ISCG)、7(ISCG)、11(ロシア)、INFO/2(RAG アクセシビリティ及びサステナビリティコーディネーター)

出力文書: TEMP/4(TSAG へのリエゾン文書案)

### 9.1 TSAG からのリエゾン文書に基づく検討(持続可能なデジタルトランスフォーメーション)

電気通信標準化アドバイザリーグループ(TSAG)の持続可能なデジタルトランスフォーメーションに関するラポータグループから ITU 全部門の SG 及び外部の標準化団体へのリエゾン文書(RAG/2)が紹介された。各グループ、団体における持続可能なデジタルトランスフォーメーションに関する活動や研究に関する情報を提供するように促す内容であり、情報提供のためのテンプレートも含まれていたものである。これに関連して、同文書に対する ITU-T SG 5 からの回答(RAG/3)が了知された。

TSAG からのリエゾン文書への応答として、Andy Quested 氏(EBU: RAG のアクセシビリティ及びサステナビリティコーディネーター/ WP 6C 議長代理)が、上記テンプレートを用い SG 6 のサステナビリティ関連活動をまとめた文書(RAG/INFO/2)が紹介された。この情報は次回セクター間調整グループ(ISCG)に提出するものとして了知された。

ロシアから、TSAG 等からのリエゾン文書をふまえた持続可能なデジタルトランスフォーメーションに関する RAG のセクター間活動において、RAG から ISCG への代表を任命することなどを提案する寄与文書(RAG/11)が紹介され、了知された。

上記に基づき、持続可能なデジタルトランスフォーメーションは部門を超えた ITU の課題であることを認識し、RAG から BR 局長に対し、ITU-R SG における関連活動に関する情報を収集し、次回の RAG 会合に報告書を提出するよう要請することで合意した。また、TSAG からのリエゾン文書(RAG/2)に対しては、本件は ISCG で議論することが最適であるとの RAG の認識を伝える内容の簡潔な返答リエゾン文書(TEMP/4)を発出することが承認された。RAG から ISCG への代表としては、RAG 副議長である Tarcisio Aurélio Bakaus 氏(ブラジル)及び Wako Gababo 氏(ケニア)が任命された。また、RAG のアクセシビリティ及びサステナビリティコーディネーターは Andy Quested 氏が再任することで合意した。

### 9.2 セクター間調整グループ(ISCG)に関する報告

2024 年 1 月 24 日に開催された ISCG 会合の報告(RAG/6)及び ISCG からの ITU-D SG 1 及び SG 2 の研究課題の ITU-T 研究課題におけるマッピングに関するリエゾン文書(RAG/7)が紹介され、了知された。RAG から各主管庁及び ISCG に対しては、部門間の作業の重複を回避するための

協力を継続することが要請された。

## 10 BR 情報システム／ソフトウェア開発状況の報告

関連文書: RAG/1(Rev.1) ( § 7)、9(ブラジル)、13(日本)

### 10.1 各種ツールの無料提供について

RAG-31 への報告に示された BR 情報システム／ソフトウェア開発状況の報告(RAG/1(Rev.1) ( § 7))が紹介された。

カメルーンから、無線通信規則(RR)ナビゲーションツール<sup>4</sup>及び RR 第 5 条周波数分配表ソフトウェア<sup>5</sup>が非常に有用であり無料提供を希望するが、コスト面での影響も承知しており、RA-23/WRC-23 の期間中に参加者に対し無料アクセスが提供されたように SG の要職者向けに特別な無料ライセンス等を発行できないかとの要請があった。また、ブラジルから、BR IFIC(宇宙業務)<sup>6</sup>のオンラインプラットフォームに関し、現在無料アクセスが 1 主管庁 1 ユーザーに限定されていることに対し、無料アクセス可能なユーザー数を 10 ユーザーに増加させるべきであるという提案が紹介された(RAG/9)。

上記の要請及び提案に対し、イランは、提案内容には賛同するが、理事会の所掌であると指摘し、フランスは、1 アカウントでも電子媒体を共有できるのに対し、アクセス数の増加は ITU の財政に影響を与えることに留意すべきとコメントした。ロシアは、BR IFIC 無料化の有用性や、主管庁側で無線通信規則を順守するために必要な情報源であること、また、提案内容自体に対する反対がなかったことに鑑み、ブラジルの提案に関する検討を継続することを支持した。BR 及び BR 局長から、これらのツールからの収入は BR ではなく ITU の一般財源に計上されるため、無料化は、必要に応じて理事会で議論すべき問題であるとの説明があった。

### 10.2 決議55(WRC-23、改)の実施に関する日本の寄与文書の検討

日本から、決議 55(WRC-23、改)<sup>7</sup>に基づく衛星通信網ファイリングの電子申請、公表等のための e-Submission 及び e-Communications システムの改善を提案(RAG/13)した。以下 3 つの提案に対し、各国から支持や質問が寄せられた。

- e-Submission と e-Communications の統合  
BR から、同 2 つのシステムの更新と改善を継続するとの説明があった。
- e-Communications の事業者への開放  
BR、フランス、エジプトから、通常主管庁間の連絡には複数の事業者の情報が含まれており、全ての事業者にシステムを開放する場合、一事業者が他社の情報まで閲覧できることになるのか等を含め、提案の意図の明確化や詳細の検討が必要であるとの意見が示された。具体的な対応については、日本が BR と協議することとされた。
- SpaceCom に代表されるその他の BR の宇宙業務関連ソフトウェアのオンライン化  
サウジアラビア、エジプトから支持の声があり、BR から、既に取り組みを始めており、日本の提案どおり作業を継続するとの説明があった。

また、BR 局長から、2017 年以來の日本の継続的な支援に対する謝辞が述べられた。BR 局長は、資金援助及び専門家の派遣を行ってきた日本の支援方法を優れた任意拠出の例として、ほかの加盟国においても将来有用なツールの開発への貢献を検討することを奨励した。

## 11 アウトリーチ

関連文書: RAG/1(Rev.1) ( § 8)、12(中国)

<sup>4</sup> <https://www.itu.int/pub/R-REG-RRX>

<sup>5</sup> <https://www.itu.int/pub/R-REG-RR5>

<sup>6</sup> <https://www.itu.int/en/ITU-R/space/brific/Pages/default.aspx>

<sup>7</sup> e-Submissionの導入は、決議908(WRC-15、改)により指示された。WRC-23の結果として、決議908は決議55に統合された。

RAG-31 への報告に示されたアウトリーチ関連の報告(RAG/1(Rev.1) (§8))として、世界無線通信セミナー(WRS)及び地域無線通信セミナー(RRS)の開催状況等が紹介された。RRS 参加者の要望を踏まえ、新たに国内周波数分配表(National Table of Frequency Allocations:NTFA)ワークショップを企画しており、2024 年の 5～6 月に地域毎に開催することも報告された。

サウジアラビアから、2 年毎に開催される WRS に加え、小規模・オンライン形式の会議を 2、3 回開催し、WRS に参加できない人などに対し最新のソフトウェアや RR 改正状況等を紹介する機会を増やすことが提案された。BR からは、WRS も RRS も対面及びオンラインのハイブリッド形式で開催され、録画データがアーカイブから視聴可能であるとの説明があった。また、BR 局長から、ファイリングのプロセスの解説はオンライン形式では難しく、専門家と参加者が PC を操作するために現地に BR から専門家を派遣するためリソースの面で課題があり、機会を増やすことに対する要望は了知してベストエフォートで対応する、との説明があった。

中国から、NGSO コンステレーションに関する研修イベントの開催を提案する寄与文書(RAG/12)が紹介された。イラン、米国、カメルーン、ロシア(SG 4 議長)、ドイツ、アラブ首長国連邦から、多くの主管庁の関心が高く、WRC-27 議題の多くにも関連するとして支持がある一方で、詳細については検討の余地があるとの指摘があった。具体的には、WRS や RRS で NGSO コンステレーションに係る技術や法制度を扱うことや、関連する ITU-R 会合に合わせてワークショップを開催することなどが検討できるとの意見が示された。また、多くの国の意思決定者が参加する ITU-D でのセミナー開催も有益であるとして、ITU-R 及び ITU-D が共同で企画するイベントの開催についても RAG から推奨することとされた。

## 12 その他

関連文書:RAG/14(サウジアラビア)

サウジアラビアから、ITU、IMO、ICAO 等における海上、航空業務関連の手続や規制要件をまとめた包括的なガイドライン策定を求める提案(RAG/14)が紹介された。BR から、求められている情報の多くは RR や地域協定等に含まれているが、パイロット用の音声通信に使われる VHF 帯など、ITU の所掌外となっている一部の周波数もまとめて包括的なガイドラインを策定する案は興味深いものであり、ICAO、IMO についても照会したところ、構想としては賛同を得たが、いずれの組織もリソース不足のため実施は不可能と回答があったことが説明された。BR からは、ICAO や IMO の活動に参加する主管庁がこれらの組織に直接提案を入力するか、WP 5B で検討を開始し、ICAO や IMO にリエゾン文書を発出するという案が提示された。ロシアから、複数個所に分散する情報を一括で確認できるようにすることが主旨であれば、WP 5B でハンドブックを作成することが考えられるとの提案があり、サウジアラビアもこれを支持した。カメルーン、南アフリカもサウジアラビアの提案を支持したが、イランからは、周波数に関する事項は RAG では扱えないとの意見も示された。結論として、RAG から各主管庁に、ICAO、IMO、ITU-R SG 5 においてこの取り組みへの支持を表明することを検討するよう奨励することとなった。

また、イランから、本 RAG-31 会合の寄与文書提出期限に間に合わなかった提案として、WRC における地域機関の構成、活動範囲、責任について議論する必要があるとの見解が示され、了知された。

## 13 次回 RAG 会合の日程

次回 RAG-32 会合の暫定的な開催日程として、2025 年 4 月 14～17 日が候補となっていることが周知された。

表 2 入力文書一覧

文書番号	提出元	表題	
1(R1) +Add.1 -2	BR 局長	Report to the thirty-first meeting of the Radiocommunication Advisory Group	RAG-31 への報告
2	TSAG	Liaison statement on the activities and studies on sustainable digital transformation	持続可能なデジタルトランスフォーメーションに関する活動及び研究についてのリエゾン文書
3	ITU-T SG 5	Liaison statement from ITU-T SG 5 on the activities and studies on sustainable digital transformation (reply to TSAG-LS22)	持続可能なデジタルトランスフォーメーションに関する活動及び研究についての ITU-T SG 5 から TSAG への返答リエゾン文書
4	BR 局長	List of proposed Vice-Chairs of RAG	RAG 副議長候補者のリスト
5	BR 局長	ITU-R Draft operational Plan for 2025-2028 and 2023 performance report	2025～2028 年 ITU-R 事業計画案及び 2023 実績報告
6	ISCG	Inter-sector Coordination Group (ISCG) - Report of the 1st meeting 2024	セクター間調整グループ(ISCG)2024 年第 1 回 会合の報告
7	ISCG	Liaison Statement from ISCG on Mapping Table 3 - Mapping of ITU-D SG1 and SG2 Questions to ITU-T Questions	ITU-D SG 1 及び SG 2 の研究課題の ITU-T 研究課題におけるマッピングに関するリエゾン文書
8	米国	Consideration of improvement of the Conference Preparatory Meeting (CPM) process	CPM プロセスの改善についての考察
9	ブラジル	Increase on the number of BRIFIC online user logins free of charge and cost recovery implications	BRIFIC オンライン無料ユーザー数の拡大とコストリカバリーへの影響について
10	ロシア	Proposal for the draft terms of reference of the RAG Correspondence Group on the possible revision of Resolution ITU-R 2-9	ITU-R 決議 2-9 の改訂を検討するコレスポンデンス・グループ(CG)の ToR 案
11	ロシア	Proposals for the work of the RAG - Participation of RAG in cross-sectoral activities	セクター間活動への RAG からの参加についての提案
12	中国	Proposal to invite the ITU Radiocommunication Bureau to organize seminars, workshops or other training activities on the rules and technologies related to the NGSO communication constellation system	ITU BR に対し NGSO に関連する規則、技術についてのセミナー、ワークショップ、その他の研修活動の開催を要請する提案
13	日本	Further development under Resolution 55 (REV. WRC-23) - Electronic submission and publication of satellite network filings	決議 55(WRC-23、改)に基づくさらなる開発—衛星網ファイリングの電子申請と公表
14	サウジアラビア	Guidelines on assignment and use of frequencies by stations in maritime, aeronautical and ancillary to them services	海上、航空、及び付随業務の局の周波数割当と使用に関するガイドライン
15	ロシア	Appointment of ITU-R Study Groups and RAG Vice-Chairmen after RA-23	RA-23 後の ITU-R SG 及び RAG の副議長任命について
16	BR 局長	Final List of Participants - 31st Meeting of the RAG (25-27 March 2024)	RAG-31 最終参加者リスト(2024 年 3 月 25～27 日)

表 3 情報文書一覧

文書番号	表題		提出元(参考)
INFO/1	Note from the Radiocommunication Advisory Group (RAG) Coordinator on the themes of accessibility and sustainability	RAG アクセシビリティ及びサステナビリティコーディネーターからの情報	アクセシビリティ及びサステナビリティコーディネーター
INFO/2	Report of the Budget Control Committee	予算委員会(WRC)の報告	BR 局長

表 4 出力文書一覧

文書番号	表題	
TEMP/1(Rev. 2)	Thirty-first meeting of the Radiocommunication Advisory Group - Draft Summary of Conclusions	RAG-31 の結論の要約(案)
TEMP/2(Rev. 1)	Draft Terms of Reference of the RAG Correspondence Group on Improving the Conference Preparatory Meeting (CPM) Process	CPM プロセスの改善に関する RAG CG の ToR(案)

文書番号	表題	
TEMP/3	Guidelines for the working methods of the Radiocommunication Assembly, the Radiocommunication Study Groups and related groups	RA、無線通信部門の SG 及び関連グループの作業方法のためのガイドライン
TEMP/4	Proposed reply liaison to TSAG on the activities and studies on sustainable digital transformation	持続可能なデジタルトランスフォーメーションに関する活動と研究についての TSAG への返答リエゾン文書案。